

連携医療機関のご紹介

今回は、中区国泰寺にある『杉本クリニック』杉本 一郎 院長です。



杉本院長

杉本クリニック

〒730-0042
広島市中区国泰寺町 2-4-2
電話 / 082-241-4187
院長 / 杉本 一郎
診療科目 / 耳鼻咽喉科・アレルギー科



○貴院が開院されてからの歩みについて教えてください。

父 杉本嘉朗（現理事長）が、この国泰寺で昭和 56（1981）年に開院しました。私も国泰寺で生まれ育ち、徳島大学医学部を卒業後、広島大学へ入局しました。その後、中国労災病院、マツダ病院、広島大学病院、北九州総合病院、東広島医療センター、再び広島大学病院、そして日赤病院勤務を経て、平成 30（2018）年より当クリニックへ赴任し、同年から院長に就任しました。現在も父と二人体制ですが、新患の方はすべて私が対応しています。

○診療の上で心掛けている事を教えてください。

耳鼻科領域のことは、なんでも気軽に相談いただける、かかりつけ医としての姿勢を大切にしています。説明を丁寧に行うこと、患者さんの理解を得ることを第一にしています。耳・鼻・のどの様々な症状のあらゆる年齢層の方が来られます。広島大学病院勤務時に、睡眠時無呼吸専門外来の責任者をしてきたこともあり、睡眠時無呼吸症候群の診療には特に力を入れております。耳鼻咽喉科医としての専門性を活かし、ファイバースコープによる気道評価を重視しながら診療を行っています。

また、学会や研究会への参加を継続し、日々研鑽を積むことを心掛けております。

○県病院はどのような存在ですか？

平位先生、呉先生を始め、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医師はよく存じ上げており、平位先生、呉先生とは、以前広大病院で一緒に勤務させていただいたご縁があり、現在もご紹介を含め、密に連携を取らせていただいております。また、小児感覚器科の益田先生も、子どもさんの聞こえ等の診断や治療について、無二の専門家として頼らせていただいております。



外観

【取材後記】

広電鷹野橋駅から徒歩すぐの好立地にある、地域に根付かれた医院です。様々な病院での豊富なご経験をお持ちで、かつ穏やかな語り口と表情が印象的な先生と感じました。今後とも当院との連携を宜しく願っています。

もみじ



県立広島病院 ☎ 082-254-1818 (代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

消化器外科



腎移植とは ？ ？ どんな治療？



消化器外科 部長(兼) 栄養管理科 主任部長
井手 健太郎

◆腎移植について

腎臓は、体の老廃物や余分な水分を尿として排出し、血圧や貧血、骨の状態を整える大切な臓器です。慢性腎臓病が進行して腎臓の働きが著しく低下すると、「末期腎不全」となり、透析療法（血液透析もしくは腹膜透析）または腎移植が必要になります。

腎移植は、健康な腎臓を提供していただき、新しい腎臓として体内に移植する治療です。移植された腎臓が働くことで、透析を行わなくても日常生活を送れる可能性があります。食事や水分制限が緩和され、仕事や旅行など、生活の幅が広がることも大きな特徴です。

腎移植には、大きく分けて「生体腎移植」と「献腎移植」があります。生体腎移植は、ご家族など生きていらっしゃる方から腎臓を提供していただく方法です。一方、献腎移植は、亡くなられた方から提供された腎臓を移植する方法で、日本では提供数が限られているため、待機期間が長くなることがあります。

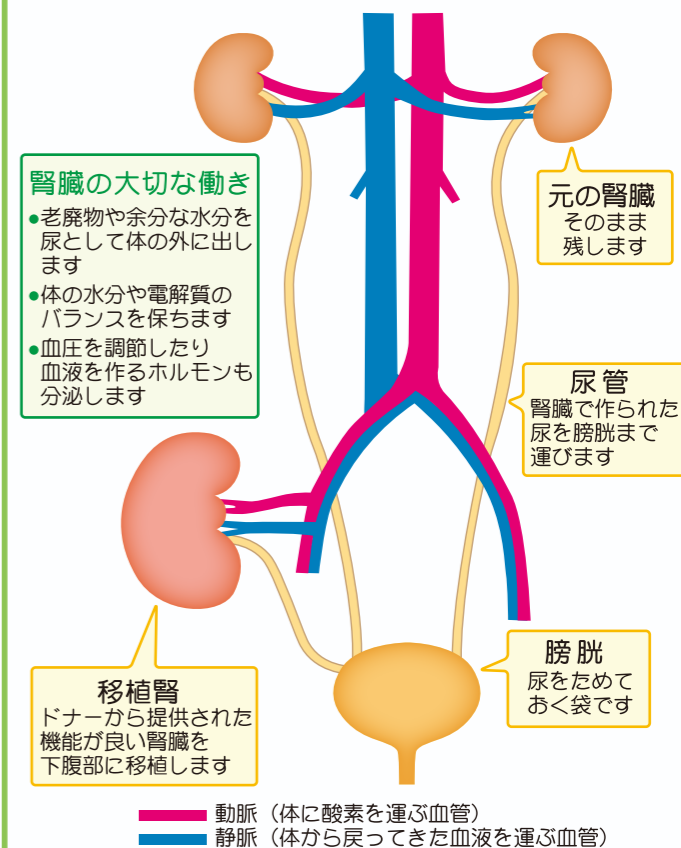
移植後は、新しい腎臓を異物とみなして攻撃する「拒絶反応」を防ぐため、免疫抑制薬を毎日服用します。現在では治療薬の進歩により、多くの患者さんで良好な成績が得られています。しかし、薬を自己判断で中断すると移植腎の機能低下につながるため、継続した内服と定期受診が非常に重要です。また、免疫を抑える影響で感染症にかかりやすくなるため、手洗いや体調管理も大切になります。

「高齢だから難しいのでは」「持病があると受けられないのでは」と心配される方もいますが、年齢だけで一律に判断されるわけではありません。患者さん一人ひとりの全身状態や生活背景を踏まえて、移植が適しているかを検討します。

腎移植は、単に透析をやめるためだけでなく、生活の質（QOL）の向上を目指す治療です。腎不全と診断された際には、透析だけでなく腎移植という選択肢についても、主治医と相談してみてください。

腎移植手術のイメージ

機能が低下した自分の腎臓はそのまま、提供していただいた腎臓を下腹部にある血管と膀胱につなぎます。



県立広島病院からのお知らせ

7月のがんサロン

開催日時 令和8年 7月17日(金)
14:00～15:00
場所 新東棟2階 研修室と
オンライン(ZOOM)参加
テーマ 『乳がんのトピックス』
講師 消化器・乳腺外科部長/野間 翠 医師
対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及び
そのご家族
問合せ先 当院での受診歴は問いません
がん相談支援センター
☎082-256-3561



電話か、窓口、二次元
コードでお申し込み
ください

がん医療従事者研修会

開催日時 令和8年 7月14日(火) 18:00～19:30
場所 中央棟2階 講堂
ZOOMウェビナー・ハイブリッド開催
テーマ 『婦人科がん診療の新展開』
～新たな診断、手術そして薬物療法～
座長 臨床腫瘍科 主任部長/篠崎 勝則
演者 産婦人科 主任部長/阪埜 浩司
広島大学大学院医系科学研究科
産婦人科学 講師/的場 優介
対象 医療従事者及びその関係者
問合せ先 総務課管理グループ(担当/岡本)
☎082-254-1818(内線/4271)



腎移植は、末期腎不全患者に対する腎代替療法の中で、生命予後および QOL 改善の両面において最も優れた治療法とされています。わが国では透析患者数が約 33 万人に達する一方、年間腎移植件数は約 2,000 件前後にとどまり、依然として移植医療の普及が課題となっています。特に献腎提供数は欧米諸国と比較して少なく、国内移植の約 90% は生体腎移植が占めています。

近年の特徴として、高齢レシピエントや糖尿病性腎症症例の増加、ABO 血液型不適合移植の普及が挙げられます。リツキシマブ導入や周術期抗体除去療法の進歩により、ABO 不適合移植は現在では標準的治療の一つとなり、ABO 適合移植と遜色ない成績が報告されています。また、HLA 適合度のみならず、ドナー特異的抗 HLA 抗体 (DSA) や HLA molecular mismatch 解析など、免疫学的リスク評価も高度化しています。

移植成績は免疫抑制療法の進歩に伴い大きく改善しており、生体腎移植における 1 年移植腎生着率は 99% 以上、5 年生着率も約 95% と良好です。一方で、長期予後においては慢性抗体関連型拒絶反応が主要な移植腎喪失原因であり、de novo DSA 形成の制御が重要課題となっています。そのため、移植後はカルシニューリン阻害薬、代謝拮抗薬、ステロイドを中心とした維持免疫抑制療法に加え、薬剤アドヒアランス管理が極めて重要となります。

手術は通常、自己腎を摘出せず、提供腎を右または左腸骨窩に留置します。腎動静脈を外腸骨動静脈へ端側吻合し、尿管膀胱新吻合を行います。生体腎移植では移植腎機能が速やかに立ち上がることで、多くの症例で術後早期より尿流出が得られます。

移植患者管理では感染症対策も重要です。サイトメガロウイルス感染、BK ウイルス腎症、ニューモシスチス肺炎などの日和見感染症への対応に加え、長期的には悪性腫瘍や心血管イベントへの介入も必要となります。さらに、移植後妊娠、高齢移植、フレイル症例など、多様化する背景への対応も求められています。

近年では透析導入前に移植を行う「preemptive kidney transplantation (PEKT)」の重要性も注目されています。PEKT は、透析期間短縮による心血管イベント抑制や移植腎予後改善につながるため、CKD stage G4-G5 段階からの早期紹介が推奨されています。

腎移植医療は、外科、腎臓内科、看護師、薬剤師、臨床工学技士、移植コーディネーターなど多職種連携によって支えられる高度医療です。当院では、地域医療機関と連携しながら、腎代替療法選択支援から移植後長期フォローアップまで包括的診療体制を構築しています。CKD 進行例や透析導入検討症例に対しては、早期から腎移植適応についてご相談ください。



患者さんから感謝のお言葉

毎日、私の状態を確認しに来てくださった先生方、そして、常に笑顔で優しく声を掛けてくださった看護師の皆様は心より感謝いたします。どのような質問に対しても、一つひとつ丁寧に説明していただき、おかげで安心して入院生活を送ることができました。

また、点滴台を押しながら下膳していた際には、看護助手の方がすぐに声を掛けてくださり、その細やかな心配りがとても嬉しかったです。本当にありがとうございました。



感謝のお言葉をくださった皆様

私達の提供している医療に感謝いただき大変嬉しく思っています。いただいたお言葉は業務をしていく上で励みになります。これからも皆様に満足していただける病院を目指してまいります。

お寄せいただいた感謝のお言葉の一部を掲載させていただきました。
(患者さんやご家族の方からのお言葉は、一部個人情報等に関わる箇所を除き、原文のまま掲載しております)

特定・認定看護師の紹介 がん化学療法看護認定看護師/がん薬物療法認定看護師

◆がん化学療法看護 / 薬物療法看護認定看護師について

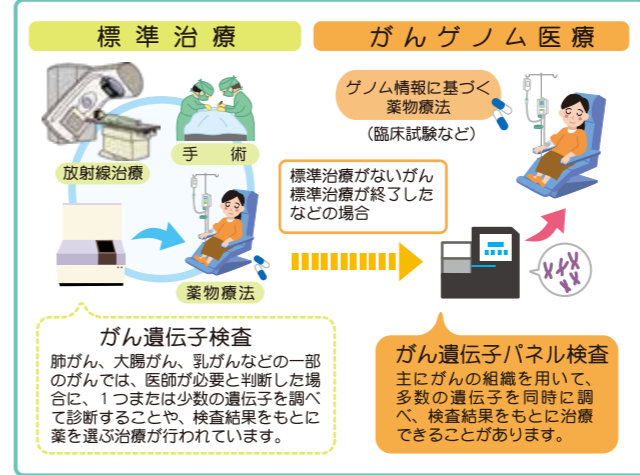
がん治療は進歩しており、2025 年に新しく保険収載されたがんの治療薬は 40 品目を超え、薬剤の種類や治療方法は複雑になっています。

私たちはがん薬物療法 (抗がん剤治療) の情報や副作用対応などをお伝えし、生活しながら治療が継続できるよう患者さんやご家族のサポートを行ったり、看護師の教育を行い、がん薬物療法を受ける方が納得、安心して治療ができるよう活動しています。

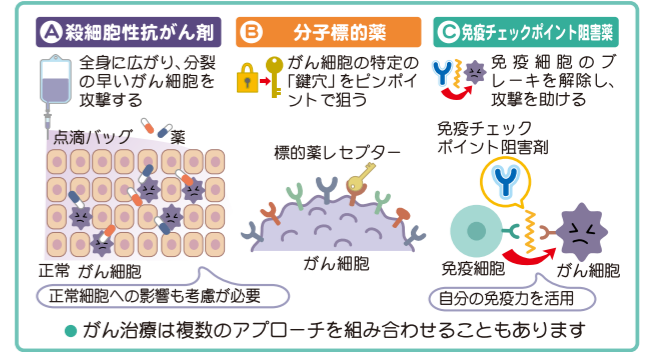
◆自分に合ったがん治療を支えます

現在、日本では個別化医療が推進され、がんゲノム医療や遺伝子検査が発展しています。

これまでは「胃がん」「肺がん」といった「がんができた場所 (臓器)」に合わせてお薬を選んでいました。しかし、最近は患者さんのがんの組織などを用いて 1 つまたはいくつかの遺伝子を調べる「がん遺伝子検査」を行い、遺伝子の変化に対応した薬を選ぶことが標準治療として通常の診療で行われています。さらに、適応となる方はがんゲノム医療が提供されます。



お薬の特徴や注意点を事前にお話しし、自宅での生活で体調の変化に早く気づけるように医師や薬剤師、様々な部門の職種と協働してサポートをします。



◆一人で悩まずご相談ください

がんの治療の進歩によりご自宅で生活をしながら通院 (外来) 治療を行う期間が長くなっています。長期間の治療による仕事の両立や就労、経済的な問題、介護や育児の問題、外見の変化、気持ちのつらさなど様々な困りごとが生じる方もおられます。そのような悩みもお聞かせください。病院内のあらゆる職種と連携してサポートしたいと思っています。そして、院内だけでなく、地域の医院や調剤薬局等とも連携し、みなさまが住み慣れた地域で安心して治療を継続できる体制を整えます。

現在、私たちは臨床腫瘍科やがん相談支援センターで活動しています。治療の不安、副作用や生活の不安など、一人で抱えられずお気軽にご相談ください。



◆IV ナースとは

当院では、専門的な知識と技術を持つ「院内認定 IV ナース」を育成しています。IV ナースは、がん薬物療法の点滴の針の挿入 (血管確保) 及び投与管理に必要な知識、技術を習得し、安全、確実、安楽な実践ができると院内で認定された看護師です。

患者さんの大切な治療薬を安全・確実に投与し、患者さんが安心して治療を受けられるよう病院各所で活躍しています。



IVナース徽章



◆がん薬物療法について

がん薬物療法には、従来からある「殺細胞性抗がん剤」や、がん細胞の増殖にかかわる特定の遺伝子だけを狙い撃ちする「分子標的薬」や、本来体に備わっている免疫の力をカモフラージュして攻撃を逃れようとするがん細胞を見破り、自分の免疫に攻撃させる「免疫チェックポイント阻害薬」など、新しいタイプのお薬が次々と登場し、治療の選択肢が大きく広がっています。

最新の個別化医療は、高い効果が期待できる一方で、「専門的すぎてよく分からない」「新しいお薬にはどんな副作用があるの?」という大きな不安や期待が入り混じるものです。実際、従来の抗がん剤とは異なる特有の副作用 (皮膚の症状や免疫のアンバランスによる不調など) が出ることもあります。